

[特集]麻疹

合併症や死亡のリスクも！高い感染力に注意を。

麻疹

はしか

疹

ってどんな病気？

関西国際空港での集団感染が発生し、その広がりが懸念されている麻疹(はしか)。感染力がたいへん強く命にかかわる合併症を引き起こすことも多く、昔は麻疹にかかると生命の危機であると言われていたほど致死率の高い病気でした。医学が進歩した現在でも年間50人前後の命を奪う恐ろしい病気です。麻疹はワクチンを接種して発症そのものを予防することが最も重要です。



麻疹とは どんな感染症？

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性のウイルス感染症です。人から人へ**空気感染**で直接うつり、感染力が極めて強く、「命さだめ」と言われるほど重症になると怖い感染症です。1人の発症者から12〜14人に感染させるといわれています(インフルエンザは1人の発症者から1人〜2人)。2013年に日本では輸入例のみとなりましたが好発年齢は1歳代が最も多く、近年では成人麻疹の増加も問題となっており、10〜20代での発症が多く報告されています。

麻疹のサイン

麻疹は風邪の初期症状と似ています。10日程度の潜伏期間の後、発熱・咳・鼻水・くしゃみなどの症状で発症。その後2〜3日程度、38度前後の発熱が続きます。素人判断では風邪と間違えることが多いですが、麻疹のサインはどんなものでしょう？

その決め手は「コプリック斑」という口の中にできる小さな白い斑点です。コプリック斑を見つけることによって、全身に発疹が出現する前に麻疹と診断することが可能です。それとともに、鮮やかな赤い色をした小さな発疹が体中に現れます。

麻疹のサイン、
【コプリック斑】はこれだ!!



発疹イメージ

麻疹と風疹の違い

どちらも体に発疹が出ることから、麻疹も風疹も同じものと考えている人もいますが、原因となるウイルスが全く違います。

風疹

飛沫感染、接触感染するウイルス。感染力はさほど強くなく感染しても、15〜30%の人は症状が出ない不顕在感染。比較的早く症状が治まる。

麻疹

空気感染、飛沫感染と、さまざまな感染経路を持つ。感染力が非常に高く感染すると、90%以上の確率で発病。高熱が数日続く。

いずれも**予防接種**で防いだり、予防接種をすることによって**発症しても症状が軽く済みます**。

大人がかかると、 重症に

大人の場合は、完治するまでに2週間以上かかるなど、重症化しやすい傾向があります。また、体力を消耗して抵抗力が落ちるため、「肺炎」「中耳炎」「脳炎」などの合併症を引き起こしやすく、それらが重症化すると、死に至ることもあります。また脳炎の約4割に後遺症が残ると言われています。

合併症が起こりやすいとされているのは、5歳未満の小児と20歳以上の大人です。高熱と発疹で子どもでさえも大変な病気です。ましてや大人になってからかかると、隔離入院が必要になるケースもあります。

妊婦は麻疹に注意

妊娠中は、ふだんよりさらに抵抗力が弱くなるので、麻疹流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなどの注意が必要です。早産や流産のリスクが高くなり、また臨月に感染すると、赤ちゃんが先天性麻疹になる可能性もあります。

麻疹を予防するためには、ワクチンを接種し、免疫を獲得することが重要です。接種後2か月間は避妊が必要で、妊娠を希望する女性は、早めにワクチンの接種を済ませておくことが大切です。

予防接種と ワクチン

麻疹予防で最も効果的なのが、**予防接種・ワクチン**。ワクチンを接種して**発症そのものを予防**することが最も重要です。接種時期は、1歳になったらできる限り早く接種しましょう。2006年度から、以前は1回だけだった予防接種は1歳児と小学校入学前1年間の幼児を対象とした2回接種となりました。これらの時期に受けるワクチンは、定期接種として通常、無料で接種が受けられます。

予防接種に使用されるワクチンは、麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)を使用します。このMRワクチンには、これまで、麻疹や風疹に罹った人にも使用できますし、麻疹・風疹の抵抗力(免疫)を1回の接種でつけることができます。

麻疹は決して過去の病気でもなく、子どもだけに起こる病気でもありません。定期接種開始から約10年間は接種率も高くなく、**20代後半〜30代の子育て世代は抗体が不十分な人が多く、感染すると子どもへ感染し、さらに子どもから学校、その親へと連鎖的に拡大していく恐れがあります**。

麻疹についてご心配な方は、医療機関へご相談ください。
(監修:内科高橋泰)